

平成 24 年度講演会「新しい情報「発見」の仕組みを作る～電子情報資源の普及と統合的発見環境」
アンケート結果

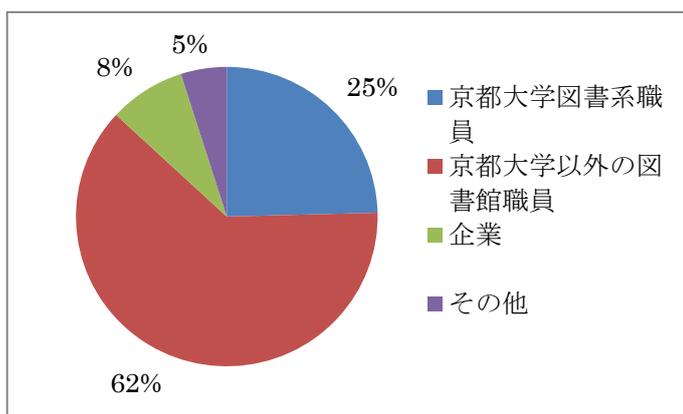
講演会実施日:2012 年 12 月 18 日(火)

参加者数:94 名(学内:37 名、学外:57 名)

アンケート回答数:61 名(回答率:65%)

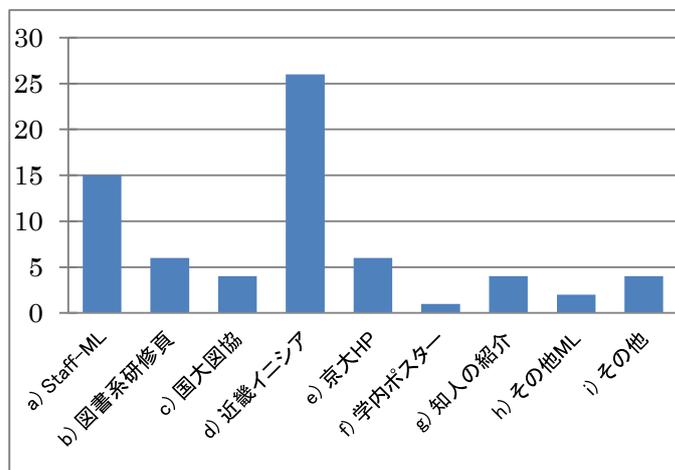
■ あなたのご所属先をお選び下さい。

京都大学図書系職員	15 名
京都大学以外の図書館職員	38 名
企業	5 名
その他	3 名



■ 本日の講演会について、どこでお知りになりましたか(複数回答可)

a) 京都大学図書館職員メーリングリスト(Staff-ML)	15
b) 京都大学図書系職員研修ページ	6
c) 国立大学図書館協会参加館への案内	4
d) 大学図書館近畿イニシアティブ参加館への案内	26
e) 京都大学ホームページ	6
f) 学内掲示(ポスター)	1
g) 知人からの紹介	4
h) その他各種メーリングリスト	2
i) その他	4



*その他各種メーリングリストの内訳(リブヨ・ブログ、kullibrarians)

*その他の内訳(JLA の図書館イベントカレンダー、上司からの情報、担当の営業の情報、学内回覧)

■ 本日の講演内容へのご意見・ご感想 (主なご意見)

- 基調講演:「新たな書誌フレームワークと統合的発見環境」(佐藤先生)
- ◇ 何年か前から言われていた、ディスカバリサービスがよいよ現実のものになってきて、それと共に目録の問題が新しい段階に入る(組みかえ、変化)ことに、驚きと、不安と、興味を感じた。
- ◇ Linked Data の活用について、具体的に例示していただき、イメージすることができた。

- ◇ 典拠情報の管理について、その要・不要も含めて、考え直す必要があると感じました。
 - ◇ 時の流れとともに変化したものをわかりやすくお話しいただけてよかったです。書誌フレームワークが新しくなり、日本の今後、図書館業務の変化が気になります。
 - ◇ 業務に近い視点しか持っていなかった自分にとって、たいへん有意義なものであった。
 - ◇ 全体像について説明していただき、とても有用でした。理解ができていない部分もたくさんあるため、これをきっかけに、もっと勉強していきたいと思いました。
 - ◇ これから起こるであろう、例えば NACSIS-CAT の次の世界の予告を受けたように思った。しばらく目録をはなれて、学務に戻ると、手の届かないもどかしい部分を感じることもあるが、変化をつかんでいきたい。
 - ◇ 海外の状況など普段なかなか理解するのが難しい動向やシステムの背景などもご説明くださり、目録を担当する中で、日々感じている海外のデータに関する疑問がだいぶ解決されました。
- 事例報告 1:「ディスカバリ・サービス導入で得られたもの—九州大学附属図書館での経験から—」(片岡氏)
 - ◇ 時系列のお話がとてもわかりやすかった。新サービスを作ることをどう実現するか、どう関わるかという点も興味深かった。
 - ◇ 新システム導入には多くの苦労もあったのではないのでしょうか。1 つの検索で様々な情報にたどりつけられるという環境を整備されたことは本当に素晴らしいことだと思いました。
 - ◇ ディスカバリ・サービス導入の舞台裏が興味深かった。ベンダーとの関係は考えるべき点だと感じた。
 - ◇ Summon 導入のご苦労がよくわかりました。先陣を切って導入されただけあって、導入までの各方面への調整上の工夫が参考になりました。
 - ◇ すごく勉強になりました。上司がどんな仕事をしているのか、少し分かった気がする。パイオニアとして、これからの図書館員(情報システム系の方)のモデルケースだと感じた。
 - ◇ 困難な状況の中で無理とあきらめず、「自ら考えて実践する」ことによって、内側から可能な状況に変えられていったお話に感銘を受けました。
 - ◇ シンプルで使いやすい「cute」ができるまでのご苦労を知った。「強い思い」がすばらしいくみを産み出す。
 - ◇ 「仕事の心構え」をまじえた発表で、自分を含め「気合を入れられた」人は多かったのでは。図書館内共通基盤の構築(例:ERDB プロジェクト)の話ももっと聞きたい(大学のカベを超えてのコミュニティづくりに向けて)。
 - ◇ とても刺激を受ける発表でした。また、今後の動向についても大変興味があります。よろしければ、ディスカバリーを導入した効果について利用者の声なども聞かせて頂けると幸いです。
 - 事例報告 2:「京都大学図書館の新 OPAC 導入について」(井上氏)
 - ◇ 360Search や Summon、どちらが利用者にとって使いやすいのか、今後の動向も含め興味があ

る。

- ◇ 実際に講演会前に使ってみて、便利に感じた。ただ、いくら統合に進んでもやはりどこかで統合できない情報源が出てしまうと思うので、それを(特に非来館の利用者に)どうナビゲートするか?という点が気になった。
- ◇ 新 OPAC に変更されてから、ディスカバリサービスだと勘違いをしていました。最後に課題として話されていた、利用者ニーズの把握という点と、システムの兼ね合いも大切なだということが印象に残りました。
- ◇ システム更新で次の OPAC について考えていたので、大変参考になりました。ディスカバリサービスを導入しないで、サービス向上を目指される姿勢に頭が下がる思いです。
- ◇ 限られた条件の中で、最大限の効果を追求していった様子が感じられた。
- ◇ 京都大学での 360Search の導入・活用事例は、独自の工夫がされていて、参考になります。また常に課題をあげられ改善にとりまわっている姿勢、見習いたいと思います。
- ◇ 課題の捉え方など利用者視点からの構築の大切さを理解できました。
- ◇ 本学も iLis 導入校なので、参考になりました。
- ◇ 今後の課題についてのお考えを伺うことができて良かったです。ディスカバリサービスの必要性を考察することや利用者ニーズの把握の重要性を感じました。

■ 本日の各講演の内容で最も印象に残った一言

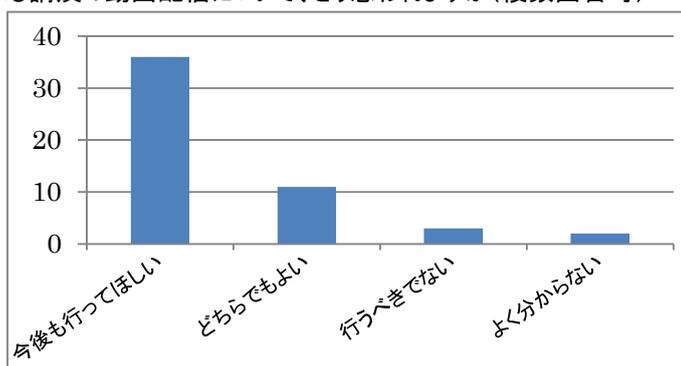
- 基調講演:「新たな書誌フレームワークと統合的発見環境」(佐藤先生)
 - ◇ スキーマに図書館のデータを提供すれば Google などで図書館の所蔵も表示される【ほか 1 名】
 - ◇ 1 番急がないといけないのはデータの権利関係【ほか 2 名】
 - ◇ CiNii でのタグ付けの件
 - ◇ Linked Open Data 【ほか 3 名】
 - ◇ 目録データをどうするか
 - ◇ ODC-BY
 - ◇ 2007 にくらべて 2011 年には、研究者がオンラインデータを直接読んでいる。
 - ◇ ……利用される能力に影響されるだろう。
 - ◇ 利用者の変化
 - ◇ 情報カオス
 - ◇ 資料のデジタル化の再考
 - ◇ 人名典拠が任意になってしまった。どこまで人の手が入られるか。【ほか 3 名】
 - ◇ 統合インデックス
 - ◇ Bibframe
 - ◇ スカラリー プリミティブス
 - ◇ Schema の説明部分「075(?)だと京都の番号ってわかるけど、パソコンはわからないので…」
 - ◇ PDA はうまくいかない。

- ◇ この 15 年での大きな変化(15 年前はスライド 4 の左上右下しかなかった)
- ◇ OCLC が CCO にしなかった理由。データを全部もっていかれる。
- ◇ ユーザー協議会の設立
- 事例報告 1:「ディスカバリ・サービス導入で得られたもの—九州大学附属図書館での経験から—」
(片岡氏)
 - ◇ 時流に合わせて変えていく。変更があることを想定しておく。【ほか 4 名】
 - ◇ 原点にかえる。
 - ◇ 大学トップページを始めとする、様々なサービスからの直接アクセス
 - ◇ (1 校だけではベンダーに声が届かないので) 大学間の連携も重要である
 - ◇ できることから取り組むことの大切さ【ほか 2 名】
 - ◇ 「難しいからやらない」では、そのまま続いてしまう。
 - ◇ As We may Think(人の思考のように) 【ほか 5 名】
 - ◇ 同じ意識を持った人は、同じ機関にはいないもの。【ほか 1 名】
 - ◇ 毎日、目の前で起こっていることが、世界の全てになってしまいがち【ほか 1 名】
 - ◇ 同じ意識を持つ人同士がつながる→状況を変えていく【ほか 1 名】
 - ◇ 上司には、本当に困った時に助言を求める。【ほか 1 名】
 - ◇ 自分たちでコントロールする
 - ◇ (大学図書館の役割) 資料とユーザーをつなぐ→人と知をつなぐ【ほか 6 名】
 - ◇ 硬直化した状況の中から次の一步を踏み出す【ほか 1 名】
 - ◇ 世界中のものは無理でも学内だったらできる
 - ◇ 自分の大学の研究者データ(典拠)は作っておく。
 - ◇ 精緻なものにするのは一元化
 - ◇ ディスカバリ
 - ◇ Web のプロが必要【ほか 2 名】
 - ◇ 見えない壁、基点になるコミュニケーターがいると変わる
 - ◇ 5 年後、10 年後の自分を意識すること。
 - ◇ 複雑に見えることをシンプルにとらえて、それを離さない。
- 事例報告 2:「京都大学図書館の新 OPAC 導入について」(井上氏)
 - ◇ ディスカバリサービスは本当にいるのか? 学生のニーズを知る必要がある。【ほか 11 名】
 - ◇ ディスカバリサービス・らしく【ほか 4 名】
 - ◇ 予算が削られる【ほか 3 名】
 - ◇ 便利なのはわかるけど、それよりも…と予算がつかない【ほか 1 名】
 - ◇ 人材育成、できる人材【ほか 1 名】
 - ◇ 新 OPAC 導入について

- ◇ 360Search を Summon に切り替えるべきなのか?【ほか 3 名】
- ◇ いや、それはちょっと(Summon 買って下さいの断り文句)
- ◇ 使い分けの必要な技術を考える「利用者教育」が図書館の務め
- ◇ 多くの利用者に広く、正しく使ってもらおう。【ほか 1 名】
- ◇ 職員の工夫と努力でカバー。

■ 本日の講演会で行った Ustream による講演の動画配信について、どう思われますか(複数回答可)

今後も行ってほしい	36 名
どちらでもよい	11 名
行うべきでない	3 名
よく分からない	2 名



- 「今後も行ってほしい」理由(主なご意見。自由記述)
 - ◇ 自分が参加できない時に視聴したい。保存・公開の義務もあると思う。
 - ◇ 会場へ行くことなく、講演を聞けることが良いと思いました。すべての講演への参加が難しくても、気軽に参加できると思います。
 - ◇ 遠隔地の方々には便利。
- 「どちらでもよい」理由(主なご意見。自由記述)
 - ◇ 参加したくても来られない場合は、動画配信があると良いと思います。
- 「行うべきでない」理由(主なご意見。自由記述)
 - ◇ より本音の部分を伺いたい場面が多くあった為。

■ その他、本日の講演会全般についてご意見等があればご記入下さい (主なご意見)

- ◇ 基調講演と事例とバランスよく構成されていて良かった。
- ◇ 世界の情報から、国内の大学の先行する事例まで、本当に「旬」の話題を拝聴することができ、大変有意義でした。
- ◇ 基調講演はややレベルが高かったが、事例については直面している事柄でもあり、とても参考になった。恐らく、図書館員のレベルも予算も大きくは違うと思うが、それぞれの規模やレベルで同じことが課題なのだなと思いました。
- ◇ 普段、勉強不足な最新動向と、現場での(身につまされる)話をバランスよくうかがうことができた。

大変勉強になりました。

■ 今後、講演会で採り上げてほしいテーマなどがあればご記入下さい

- ◇ 学生との協働、教員との協働
- ◇ 図書館システムのクラウド化について。
- ◇ 人材育成(スキルや知識のつなぎ方)
- ◇ 学生の使うツール(iPad等のタブレットPC、iPhoneなどのスマートフォン)にどうすれば図書館が提供する情報を取り入れてもらえるか?
- ◇ 図書館における留学生対応、国際サービスについて
- ◇ 新しい学習支援の形(ラーニングコモンズなど)
- ◇ 本日は Summon ですが、EBSCO の話もききたい。
- ◇ 利用者がどのように多様なシステムを使いこなしているのか、あるいはいないのか、を、参考調査などの担当者から聞いてみたい。
- ◇ ERDB について
- ◇ 「オープンアクセス促進」「電子ジャーナル価格高騰対策」に向けての学内での働きかけと JUSTICE 等(個々の大学を超えて)での成果
- ◇ 大学図書館と学習・教育(特に図書館員の授業への関与)
- ◇ 文献管理ツール(例:Mendeley)と図書館サービス"
- ◇ 職員、人材育成について、など。
- ◇ ソーシャルメディアの活用。
- ◇ Web デザインについて。
- ◇ 海外情報の集め方、研修の事例など